

等ニ屬セルモノヲ指セルモノト認メラル(第一項イノ四)

ロ、日本帝國政府ニ對シ四十八時間以内ニ被拘留者收容所長ニ對スル訓示ヲ指示シ來レルコト(第三項)右訓令中收容所長ノ被拘留者ニ對シ讀ミ上グベキ文書ニ「日本國ノ聯合國ニ對スル正式降伏」ナル字句アルハ注意ヲ要ス又指定セラレタル被拘留者ヲシテ收容所ノモノヲ監督センムルノ措置ヲ命ジ居レリ

4. 第四章資源勞務住居ニ於テ本指令ハ帝國政府ノミニ對シ要求ヲナシ居レルガ之等ノ事項ハ何レモ直接一般國民ニ關係スル所甚大ナリ

イ、資源
總則ニ於テ一切ノ地方的資源ヲ聯合國占領軍ノ處分ニ委スベシト規定シ占領軍ハ一切ノ資源ヲ自由ニシ得ル廣汎ナル意義ヲ有ス斯クテ聯合國占領軍ノ使用ニ供スルタメ食料、衣料、燃料等ノ物資源ハ勿論アラユル資源ノ處分ヲ占領軍ニ委ヌル結果ヲ生ズト解セラレザルニ非ズ然レドモ右ハ占領軍ガ地方民ノ利益ヲ顧慮セス地方的資源ヲ全ク自己ノ自由ナル支配ノ下ニ置カントスルニハ非ズシテ占領軍ノ維持ニ必要ナル範圍ニ於テ使用セントスルモノナリ

五、降伏後ニ於ケル米國ノ初期ノ

對日方針(假譯)

以下ハ降伏後ノ日本ニ對スル初期ノ全般ノ政策ニ關シ國務省、陸軍省及海軍省ニ依リ共同ニ作成セラレ九月六日大統領ノ承認ヲ得タル聲明ナリ、本文書ノ概要ハ八月二十九日「マクアーサー」元帥ニ對シ書信ヲ以テ傳達セラレ九月六日大統領ノ承認ヲ經タル後傳書使ニ依リ同元帥ニ送付セラレタリ

本文書ノ目的
本文書ハ降伏後ノ日本ニ對スル初期ノ全般ノ政策ニ關スル聲明ナリ本文書ハ大統領ノ承認ヲ經タルモノニシテ聯合國最高司令官及米國內關係各

省及機關ニ對シ指針トシテ配布セラレタリ、本文書ハ日本占領ニ關スル諸問題中政策決定ヲ必要トスルモノヲ網羅シ居ラス本文書ニ合マレス又ハ充分盡サレ居ラサル事項ハ既ニ別個ニ取扱ハレ乃至ハ將來別個ニ取扱ハルヘシ

第一部 究極ノ目的

日本ニ關スル米國ノ究極ノ目的ニシテ當初ノ時期ニ於ケル政策力違フヘキモノ左ノ如シ

A 日本カ再ヒ米國ノ脅威トナリ又ハ世界ノ平和ト安全ノ脅威トナルコトナキ様保證スルコト

B 他國家ノ權利ヲ尊重シ聯合國憲章ノ理想ト原則ニ示サレタル米國ノ目的ヲ支持スヘキ平和的且責任アル政府ヲ追テ樹立スルコト、米國ハ斯ル政府カ出來得ル限り民主主義的自治ノ原則ニ合致スルコトヲ希望スルモ自由ニ表示セラレタル國民ノ意思ニ支持セラレサルカ如キ政體ヲ日本ニ強要スルコトハ聯合國ノ責任ニアラス

此等ノ目的ハ左ノ如キ主要手段ニ依リ達成セラルヘシ

A 日本ノ主權ハ本州、北海道、九州、四國並ニ「カイロ」宣言及米國カ既ニ參加シ又ハ將來參加スルコトアルヘキ他ノ協定ニ依リ決定セラ

ルヘキ重要ナラサル附近島嶼ニ限ラルヘシ

B 日本ハ完全ニ武裝解除セラレ且非軍國主義化セラルヘシ、軍國主義者ノ權力ト軍國主義ノ影響力ハ日本ノ政治、經濟及社會生活ヨリ一掃セラレヘシ、軍國主義及侵略ノ精神ヲ表示スル制度ハ強力ニ抑壓セラ

ルヘシ
C 日本國民ハ個人ノ自由並ニ基本的人權ノ尊重特ニ信教集會言論出版ノ自由ニ對スル欲求ヲ増大スル様獎勵セラルヘク且民主主義的及代議的組織ノ形成ヲ獎勵セラルヘシ

0220

D 日本國民ハ平時ノ要求ヲ充シ得ルカ如キ經濟ヲ自力ニ依リ發達セシムヘキ機會ヲ與ヘラルヘシ

第二部 聯合國ノ權力

1. 軍事占領

降伏條項ヲ實施シ更ニ上述ノ究極目的ノ達成ヲ促進スル爲メ日本本土ハ軍事占領セラヘシ右占領ハ日本ト戰爭狀態ニ在ル聯合國各國ノ利益ノ爲メ行動スル主要聯合國ノ爲メ軍事行動タルノ性質ヲ有スヘシ右ノ理由ニ因リ對日戰爭ニ於テ指導的役割ヲ演シタル他ノ諸國ノ軍隊ノ占領ヘノ參加歡迎セラレ且期待セラルルモ占領軍ハ米國ノ指定スル最高司令官ノ指揮下ニアルモノトス

日本ノ占領及管理ノ施行ニ關シ充分協議ヲ行フト共ニ適當ナル諮問機關ヲ設ケテ主要聯合國ヲ満足セシムベキ政策ヲ樹立スル様有ラユル努力ヲ盡スヘキモ萬一主要聯合國ニ意見ノ不一致ヲ生シタル場合ニ於テハ米國ノ政策ニ從フモノトス

2. 日本政府トノ關係

天皇及日本政府ノ權力ハ降伏條項ヲ實施シ日本ノ占領及管理ノ施行ノ爲メ樹立セラレタル政策ヲ實行スル爲メ必要ナル一切ノ權力ヲ有スル最高司令官ニ隸屬スルモノトス
日本社會ノ現在ノ性格竝ニ最小ノ兵力及資材ニ依リ目的ヲ達成セントスル米國ノ希望ニ鑑ミ最高司令官ハ米國ノ目的ノ達成ヲ満足ニ促進スル限リニ於テハ 天皇ヲ含ム日本政府機關及諸機關ヲ通シテ其權力ヲ行使スヘシ日本政府ハ最高司令官ノ指示ノ下ニ國內行政事項ニ關シ通常ノ政治機能ヲ行使スルコトヲ許容セラルヘシ但シ右方針ハ天皇又ハ他ノ日本ノ機關力降伏條項實施上最高司令官ノ要求ヲ満足ニ果ササル場合最高司令官カ政府機構又ハ人事ノ變更ヲ要求シ乃至

ハ直接行動スル權利及義務ノ下ニ置カルルモノトス尙右方針ハ最高司令官ヲシテ米國ノ目的ノ達成ヲ目途スル前進的的改革ヲ抑ヘテ天皇又ハ他ノ日本政府機關ヲ支持セシムルモノニアラス即チ右方針ハ現在ノ日本統治形式ヲ利用セントスルモノニシテ之ヲ支持セントスルモノニアラス封建的又ハ權力主義的傾向ヲ修正セントスル統治形式ノ變更ハ日本政府ニ依ルト日本國民ニ依ルトヲ問ハス許容セラレ且支持セラルヘシ斯ル變更ノ實現ノ爲メ日本國民又ハ日本政府カ其ノ反對者抑壓ノ爲メ強力ヲ行使スル場合ニ於テハ最高司令官ハ麾下ノ部隊ノ安全竝ニ占領ノ目的ノ達成ヲ保障スルニ必要ナル限度ニ於テ之ニ干渉スルモノトス

3. 政策ノ弘布

日本國民及世界一般ハ占領ノ目的及政策竝ニ其ノ達成上ノ進展ニ關シ詳細ナル情報ヲ與ヘラルヘシ

第三部 政治

一、武裝解除及非軍國主義化

武裝解除竝ニ非軍國主義化ハ軍事占領ノ主要任務ニシテ即時且斷乎トシテ實行セラルベシ、日本國民ニ對シテハ其ノ現在及將來ノ苦境招來ニ關シ陸海軍指導者及其ノ協力者カ爲シタル役割ヲ徹底的ニ知ラシムル爲メ一切ノ努力カ行ハルヘシ、
日本ハ陸海空軍、秘密警察組織又ハ何等ノ民間航空ヲ保有スルコトナシ日本ノ地上、航空竝ニ海軍兵力ハ武裝ヲ解除セラレ且解體シ、日本大本營、參謀本部(軍令部)及凡テノ秘密警察組織ハ解消セシメラルヘシ、陸海軍資材、陸海軍艦船、陸海軍施設及陸海軍民間航空機ハ引渡サレ且ツ最高司令官ノ要求スル所ニ從ヒ處分セラヘルシ
日本大本營及參謀本部(軍令部)ノ高級職員、日本政府ノ其他ノ陸海

0221

軍高級職員、其他ノ國家主義的竝ニ軍國主義的組織ノ指導者其他ノ軍國主義竝ニ侵略ノ重要ナル代表人物ハ拘禁セラレ、將來ノ處分ノ爲留置セラレベシ、軍國主義竝ニ好戰的國家主義ノ積極的代表人物タリシ者ハ公共的職務竝ニ公的又ハ重要ナル私的責任アル如何ナル地位ヨリモ排除セラレベシ、極端ナル國家主義的又ハ軍國主義的ノ社會、政治職業竝ニ商業上ノ團體及機關ハ解消セラレベシ

理論上竝ニ實踐上ノ軍國主義及極端ナル國家主義（軍事教訓ヲ含ム）ハ教育制度ヨリ除去セラレベシ、嘗テ陸海軍ノ職業的將校竝ニ下士官タリシ者其他軍國主義竝ニ極端ナル國家主義ノ代表人物タリシ者ハ凡テ監督的及教育的地位ヨリ排除セラレベシ

二、戰爭犯罪人

最高司令官又ハ適當ナル聯合國機關ニヨリ戰爭犯罪人トシテ告發セラレタル者（聯合國俘虜又ハ其ノ國民ヲ虐待セル廉ニヨリ告發セラレタル者ヲ含ム）ハ逮捕セラレ裁判ニ付サレ有罪ノ判決アリタル時ハ處罰セラレベシ、聯合國中ノ他ノ國ヨリ其ノ國民ニ對スル犯罪ヲ理由ニ要求セラレタル者ハ最高司令官ニヨリ裁判ノ爲又ハ證人トシテ或ハ其他ノ理由ニ依リ必要トセラレサル限り當該國ニ引渡シ拘禁セラレベシ

三、個人ノ自由及民主主義過程ヘノ冀求ノ獎勵

宗教的信仰ノ自由ハ占領ト共ニ直ニ宣言セラレヘシ同時ニ日本人ニ對シ極端ナル國家主義的竝ニ軍國主義的組織及運動ハ宗教ノ外被ノ蔭ニ隠ルルヲ得サル旨明示セラレヘシ、日本國民ハ米國及其他ノ民主主義國家ノ歴史、制度、文化及成果ヲ知ル機會ヲ與ヘラレ且ツ其ノ事ヲ獎勵セラレヘシ、占領軍人員ノ日本人トノ交渉ハ所要ノ限度ニ於テノミ占領政策竝ニ占領目的ヲ促進スル爲統制セラレベシ

集會及公開言論ノ權利ヲ保有スル民主的政黨ハ獎勵セラレベシ但シ占

領軍ノ安全ヲ保持スル必要ニ依リ制限セラレベシ

人種、國籍、信教又ハ政治的見解ヲ理由ニ差別待遇ヲ規定スル法律、命令及規則ハ廢止セラレベシ又本文書ニ述ヘラレタル諸目的竝ニ諸政策ト矛盾スルモノハ廢止、停止又ハ所要程度ニ修正セラレベシ、此等諸法規ノ實施ヲ特ニ其ノ任務トスル諸機關ハ廢止又ハ適宜改組セラレベシ、政治的理理由ニヨリ日本當局ニヨリ不法ニ監察セラレ居ル者ハ釋放セラレベシ

司法、法律及警察組織ハ第三部ノ一及ニ於テ掲ケラレタル諸政策ニ適合セシムル爲出來得ル限り速ニ改革セラレルベク爾後個人ノ自由竝ニ民權ヲ保護スル様進歩的ニ指導セラレベシ

第四部 經濟

一、經濟上ノ非軍事化

日本軍事力ノ現存經濟基礎ハ破壊セラレ且ツ再興ヲ許與セラレサルヲ要ス從テ先ツ下記諸項ヲ含ム計畫力實施セラレベシ

○各種ノ軍事力又ハ軍事施設ノ裝備、維持又ハ使用ヲ目的トスル一切ノ物資ノ生産ノ即時停止及將來ニ於ケル禁止

○海軍艦船及一切ノ形態ノ航空機ヲ含ム諸般ノ戰爭手段ノ生産又ハ修理ノ爲ノ一切ノ専門的施設ノ禁止

○隱蔽又ハ偽裝軍備ヲ防止スル爲日本ノ經濟活動ニ於ケル特定部門ニ對スル監察管理制度ノ設置

○日本ニトシテ其價値カ主トシテ戰爭準備ニ在ル如キ特定諸產業乃至生産部門ノ除去

○戰爭遂行力増進ニ指向セラレタル専門的研究及教育ノ禁止

○將來ノ平和的需要ノ限度ニ日本重工業ノ規模及性格ヲ制限スルコト

○非軍事化目的達成ニ必要ナル範圍ニ日本商船ヲ制限スルコト

0222

本計畫ニ從ツテ廢止セラルヘキ日本ノ現存生産設備ノ終局的處分ニ關シ、用途轉換、外國ヘノ搬出、又ハ屑鐵化ノ何レトスヘキヤハ目録作成（「インベントリー」）後決定セラルベシ、右決定ニ至ル迄ノ間ニ於テハ容易ニ民需生産ニ轉換シ得ル諸設備ハ非常ノ場合ヲ除キ破壊セラレベカラズ

從來ノ日本ノ政策ハ日本國民ニ經濟上ノ大破滅ヲ齎シ且日本國民ヲ經濟上ノ困難ト苦惱ノ見透シニ直面セシムルニ至レリ

日本ノ現在ノ狀態ハ日本自ラノ行爲ノ直接ノ結果ニシテ聯合國ハ其ノ蒙リタル損害復舊ノ重荷ヲ負ハサルベシ

之ガ復舊ハ唯日本國民ガ一切ノ軍國主義的目的ヲ放棄シ欣然且専心平和的生産様式ニ立向フ曉ニ於テノミ實現セラルベシ、日本ハ物質的再建ニ着手スルト共ニ其ノ經濟活動及經濟上ノ諸機構ヲ徹底的ニ改革シ且日本國民ヲ平和ヘノ線ニ沿ヒ有益ナル職業ニ就カシムルコト必要ナリ聯合國ハ適當ナル期間内ニ右諸措置ヲ實現サルコトヲ妨クルコトアルヘキ條件ヲ課セントスル意圖ナシ

占領軍ノ必要トスル物資及勞働ノ調達ニ關シテハ之ガ爲飢餓、疫病ノ流行及甚シキ生理上ノ困難ヲ生セサル程度ニ於テ日本ガ調達センコトヲ期待ス

日本當局ニ對シテハ左ノ目的ニ役立つ計畫ヲ續行、着手、實施スルコトヲ期待スルモノニシテ必要アル場合ニ於テハ之ヲ命令スベシ

A 甚シキ經濟上ノ苦難ヲ避クルコト

B 入手シ得ル物資ノ公正ナル配給ヲ確保スルコト

C 聯合國政府間ニ協定セラルル賠償引渡ノ要求ニ應スルコト

D 日本國民ノ平和の需要ヲ適度ニ充シ得ル如ク日本經濟ノ再建ヲ促進スルコト

右ニ關シ日本當局ハ自己ノ責任ニ於テ必須國家公共事業、財政、銀行、必需物資ノ生産及分配等ヲ含ム經濟活動ノ管理ヲ實施スルコトヲ許サルヘシ

二、賠償並ビニ返還

日本ノ侵略ニ對スル賠償方法ハ左ノ如シ

1. 賠償

A 日本ノ保持スル領域外ニ在ル日本財産ヲ關係聯合國當局ノ決定

ニ從ヒ引渡スコト

B 平和的ノ日本經濟乃至占領軍ニ對スル補給ノ爲必要ナラサル物資、現存資本設備及施設ヲ引渡スコト

尙賠償勘定ニ於テ輸出方指令セラレタルモノ乃至ハ原所有主ヘノ返還ノ爲輸出方指令セラレタルモノノ他荷受主力所要ノ交換的輸入ノ提供ニ同意乃至ハ外國爲替ニヨル支拂ニ同意スル場合ニノミ國外輸出ヲ許容ス、日本ノ非軍事化計畫（「デミリタリゼーション」）ト矛盾シ若クハ之ニ支障ヲ來スカ如キ種類ノ賠償ヲ強要スルコトナカルヘシ

2. 返還

略奪セル財産ハ略奪品ナルコト判明スル限り一切之ヲ完全且即時ニ返還スルヲ要ス

三、財政、貨幣並ニ銀行政策

日本當局ハ最高司令官ノ同意及監督ノ下ニ依然國內ノ財政、貨幣並ニ信用政策ノ管理及指導ノ責任ヲ保持スベシ

四、國際通商及金融關係

日本ハヤカテハ諸外國トノ正常ナル通商關係ノ再開ヲ許容サルベキモ

占領期間中ハ適當ナル統制ノ下ニ外國ヨリ平和的ナル目的ノ爲ニ必要

0223

トスル原料並ニ他ノ商品ヲ購入スルコト並ニ許容セラレタル輸入ノ支拂ヲナス爲ノ商品輸出ヲ許可セラルベシ

一切ノ商品輸出入、外國爲替及金融取引ニ對シ統制ヲ維持スベキ處右統制實施ノ爲ニ執ルベキ政策及實際ノ統制運營ハ何レモ右諸取引カ占領軍當局ノ政策ニ違反セス且特ニ日本ノ獲得スル一切ノ對外購買力ガ日本ノ缺クベカラザル必要ノ爲ニノミ利用サルルコトヲ確實ナラシメル爲最高司令官ノ承認及監督下ニ置カレルベシ

五、在外日本資産

日本ノ在外資産及降伏條件ニ依リ日本ヨリ分離セシメラレタル地域ニ在ル日本ノ資産ハ全部乃至一部皇室竝ニ政府ノ所有ニ屬スル資産モ含メ占領軍當局ニ明示セラレ且聯合國當局ノ決定ニ依ル處分ニ委ネラルベシ

六、日本國內ニ於ケル外國企業ニ對スル機會均等

日本當局ハ自ラ若クハ日本ノ産業組織ヲ通シ如何ナル外國ノ企業ニ對シテモ排他的乃至優先的機會乃至條件ヲ與ヘザルベク又外國企業ニ對シ經濟活動ノ如何ナル重要ナル部門ノ統制權ヲモ讓渡セザルベシ

七、皇室ノ財産

皇室ノ財産ハ占領ノ諸目的達成ニ必要ナル措置ヨリ免除セララルコトナカルベシ

0224

正 誤 表

二十四頁上段第五行及第六行ニ挿入

二、民主主義勢力ノ助長

民主主義の基礎ニ基キ組織セラレタル労働、生産業及農業部内ノ諸組織ノ發展ハ之ヲ奨励支持スベシ、生産及商業手段ノ所有權及之ガ收入ヲ廣範圍ニ分配スルコトヲ得シムル諸政策ハ支持スベシ、日本國民ノ平和的傾向ヲ強化シ且經濟活動ヲ軍國主義的目的ノ爲ニ支配乃至指導スルコトヲ困難ナラシムルト認メラルル經濟活動ノ各形態、組織及指導者ハ之ヲ支持スベシ。

右目的ノ爲最高司令官ハ左ノ如キ政策ヲ執ルベシ

A 平和目的ノミヲ指シテ將來ノ日本ノ經濟活動ヲ指導セザル者ハ之ヲ經濟界

ノ重要ナル地位ニ留メ又ハ斯カル地位ニ選任スルコトヲ禁止スルコト

B 日本ノ商工業ノ大部分ヲ支配シ來リタル産業上及金融上ノ大「コンピネーシ

ョン」ノ解體ヲ支持スベキコト

三、平和的經濟活動ノ再開

頁

誤

正

二十四頁下段	四行	二、賠償並ビニ返還	四、賠償並ビニ返還
同	二十行	三、財政、貨幣並ニ銀行政策	五、財政貨幣並ニ銀行政策
同	二十三行	四、國際通商及金融關係	六、國際通商及金融關係
二十五頁上段	八行	五、在外日本資産	七、在外日本資産
同	十三行	六、日本國內ニ於ケル外國企業ニ對スル機會均等	八、日本國內ニ於ケル外國企業ニ對スル機會均等
同	十七行	七、皇室ノ財産	九、皇室ノ財産